

(7) Uターン・Iターンしての感想

青森県に転入しての感想を尋ねると、Uターンでは「良かった」と感じている人が大半を占め、「悪かった」と感じている人は「どちらでもない」と感じている人より多いことがうかがえた。

一方、Iターンでも「良かった」と感じている人が大半を占め、「悪かった」と感じている人は、「どちらでもない」と感じている人より多いことがうかがえた。

■ 記述内容 ■

【Uターン】

a. 良かった

・とても良かった（満足している）	(57)
・地元なので安心する	(11)
・一度県外に出たことで、青森県の魅力を知ることができてよかった	(7)
・親族や友人がいるのでなんとかやっていける	(6)
・心にゆとりを持った穏やかな生活ができています	(5)
・地域に住む人にしかわからない魅力を再発見した	(2)
・よかったが、閉鎖的だとは常日頃感じる	
・結果的に家庭を持ち、家庭内で男女共同参画を実践しているので不満はない。	
・結果的にこの暮らしが合っていて、これからも大きな転機などがなければこのまま暮らし続けるのでは。と考えている	
・よい就職先を見つけることができたなら、県外に行かなくてもよかったかもしれないと思った	
・都会で一生暮らすのは性に合わないと思っているので、県内で就職して良かったと思っている	
・都会と違って、不自由に感じることが多いが慣れるとそうでもない	
・食べ物おいしく、壮大な自然が身近にあり、Uターンして良かったと思っています	
・体調は安定したが、奨学金の返済もあり、40代になるまで経済的にも大変だったし、かといって仕事が楽だったわけでもなく、遊ぶ余裕も場所も無かった。今ようやく、リモートワークやサブスクのサービス、各種配信等が始まったことで、地方でも安価で楽しめることが劇的に増えたと思う	
・親元の近くにいるということはお互い安心感があってよい 地元の活性化に貢献したいと思い青森県に戻り就職したが特段何かをやれているという実感もなく、このまま衰退していく県だという認識は変わらない	
・言葉が通じますし、かっこつけなくて良い	

2 調査結果

・ 高校生の頃までは気づけなかった青森県の良さを県外に出てみて知った。幼いころから住んでいる馴染みの土地で生活ができることに幸せを感じている
・ 一度離れた際、改めて青森県の伝統文化や自然の魅力に気づけた。学生の頃よりも行動範囲が広がり、新しい青森の良いところを感じられている
・ 昔から住んでいるので、慣れた環境で暮らす安心感は大きいです。家族や友人と過ごす時間が長くなり、落ち着いて暮らせていると感じます
・ 家族の要望で帰ってきたため3年くらいは家族との意見の食い違いがあったが、ライフステージなど考えた時に出身地で暮らすのが一番合理的と思えるようになってからは帰ってきて良かったと感じている
・ Uターン後は、関東に戻りたいと思っていて、青森に息苦しさ感じていた子供が生まれて、両親が近くにいいなと思う
・ 青森県、もっと魅力をアピールして！
・ プライベートが充実
・ 治安が良い
・ 災害や事故等予期せぬことがあったときに頼れる身近な人がいることは安心感がある。県外で生活していても、戻ってくる友人もいるため、就職先がもっとあれば（見つけやすければ）いいのではないかと思う
・ 自家用車を持ち、休日には温泉や公園、イベントへ遊びに行くなど首都圏に住んでいた時とはちがう心安らぐ休日を過ごせている。しかし、冬場は外に出る機会がぐんと減り、気分が落ち込むこともあるため地域の体育館でのスポーツなど積極的に参加するようにしている
・ よかったが、都会へのあこがれは今でもある
・ 地元で夢だった仕事をする事が出来ているので満足している。
・ 都会に住んでいた時もそれなりに楽しかったが、都会にはもう住みたくないなと思う。子供がいるとなおさら田舎の方が良い
・ 10-20代では物足りないと感じていた環境も、30代で住むにはとても住みやすいと感じている。実家が近いことも安心要素
・ 娯楽等については物足りなさを感じざるを得ないですが、都会の喧騒から離れて落ち着いた暮らしができていたため、Uターンをして良かったと思っています。外に出たことで、青森の良さに改めて気づくことができたと思っています
・ 青森県から離れたくないです
・ 青森県も悪くないなあと
・ どこに住んでも住めば都
・ 皆画一に貧乏なので、馴染みやすさはある
・ 買い物（日用品以外）をする場がないので無駄遣いが減った。家族との関わりが意外と楽しい

2 調査結果

・郡山市は都会過ぎず、田舎過ぎずとても過ごしやすい街だった。東京も仙台も高速バスで気軽に行けるところも魅力で、青森県だと交通の便にやはり不便さは感じる。家族のそばに居たいと思い帰って来たので後悔もないし、帰って来て良かったと思っている。ただ、やっぱり都会への憧れは残っていると感じる
・前にいた場所より交通は便利だと思いました
・子供にとってはよかったと思うし、子供の時よりも閉塞感がなく自分も楽しめている。車の乗れて行動範囲が広がったからかも。雑草刈り・雪かきが面倒
・人口の減少が心配
・東京と比較し、人が密集しすぎず、景観も自然が多いため、気づかないうちにリラックスできていることが分かった
・一度は県外を出たほうがよいと思う。県外に出ることで青森を客観的に知ることができ、良さも実感できる。県外に出さないという県施策が目立つが、「一度出てみて、いつでも戻っておいで」というのもいいように思う。様々な土地に触れて学び得た事を地域に戻って還元すれば、青森の活性化につながるかと思う
・東京での就職を選んでいたらと思うこともあるが、現時点では自分に合っている暮らしだと思う。
・娯楽は確かに少ないが、遊ぶときは都会に比べいいし、子育てもののびのびできるのでよかった
・よかったと思うが、もう一度都会に出てからまた帰ってきたいと思う
・親に何かあった時にすぐに駆け付けられるし、親も安心していると思う
・都会で就職した方が給与面ではよかったのかもしれませんが、親の老後や自分の今後の人生を考えると、生まれ育って住み慣れたところに帰って来たのは正解だったなと思います
・北海道で人口が多い都市にいて毎日せかせかした雰囲気は段々ときつく感じていたので、青森に戻ってきたときは精神的負担が軽くなり、よかったと思った。大学を卒業してからも就職活動をしていて面接に落ち続けていたので、働いている友人や学生の友人にアドバイスをもらったり、気分転換に出かけたりできて、つらい時期を乗り越えられたと思っている
・都会の凶悪な事件をニュースで見ると、ああいう変な人がいない所で暮らしていて良かった、と感じる。夏に蚊に刺されないのが嬉しい。紫外線が年間通して弱いので、お肌に良くて助かる
・自分やこどもの選択肢を狭めているような後悔もあるが、実家との結びつきを考えるとＵターンして戻ってきてよかったと思う
・Ｕターンする前は嫌々だったが、異動で住み始めた街と人が良くて、戻ってきてよかったと思っている
・親も安心しているし、結果としてＵターンしてよかったと感じる。また、同級生も数年前に東京からＵターンしてきたが、東京での生活よりも青森での生活の方がはるかに充実していると言っていた（東京でOLをしていた頃は、週末は疲れてずっと家で寝ていたが、青森にＵターンしてきた今は会社の友人等とアウトドアを楽しんでいるとのこと）
・まあまあ暮らしやすい

2 調査結果

・Uターンして良かった。県外での経験や人脈が仕事やプライベートで活かすことが出来ていて楽しい
・都会では知らない人との距離が近くて息苦しいところがあったが、青森は知っている人との距離も近過ぎないので気持ちに余裕が持てます。ただ、仕事の選択の範囲は狭いのが難点です。商業施設や娯楽施設に時間をかけて行く点は都会と変わらず、電車やバスが車に変わっただけなので、むしろ車の方が荷物なども載せられ、気軽に出来るので良いと思います。子育てする上でも車の方が楽です。子育てするなら青森県で良かったです
・家族が近くにいる安心感。津軽弁が大好きなので毎日津軽弁が話せることが嬉しい。日常生活をする上ではなんら問題ない
・とても楽しかったし、子育てもしやすく、賃金も高かった

b. 悪かった

・定住する気持ちはない	(8)
・帰ってこなければよかったと後悔している	(6)
・もう少し関東で仕事をしていれば良かったと思う	(3)
・地元でなければ、住みたいと思わない。親のために仕方なく住んでいる	(3)
・最悪	(2)
・青森県のいくつかの会社で面接した際に、男性に対してはしないような質問（結婚、子育て、家事など）をされて、あまりにも旧態依然とした感覚に愕然として失望した。青森ではまだまだ女性の地位が低いと感じることが多く、憤りやむなしさを感じることがある	
・嫌だと思っていた男尊女卑的価値観は結局改善されていない。実家がなければ戻ってくることはなかったと思う	
・性差に関する認識が旧態依然としており、それだけではなく多様性に関する社会の意識の低さも目立ち、Uターンしたことで県内の閉塞感をより実感しています	
・何で帰ってきちゃったんだろう。何でもっとつっぱって向こうで頑張らなかつたんだろう。と、いまだに思う。もう再度出て行くこともできないので、せめて子供達には自由にさせたい	
・戻って3年くらいは、出ていく気満々でした。狭い世界しか知らない人たちの、狭い世界観を受け入れるのには時間がかかりました	
・女性が子育てしながら働ける企業や職種が少ないと思う。現在はパートで働いているがフルタイムで正社員として働けるよう就活を進めているが難航している	
・ネットの普及などで以前よりは都会に憧れはなくなり地方でも良いかなと感じていたが、年齢を重ねるにつれ、介護や雪かきなどの問題が出てきたので今は青森県から転出したいと考えている	
・雪が降るのでとりあえず冬は大変。 Uターンをして後悔していることもあるが、一度Uターンすると、なかなか都会へ戻りづらい	
・テレビを見ているとパチンコ・競馬・競輪などのCMが非常に多く、本当にギャンブル以外の娯楽が少ないんだなと、なんだか寂しく感じた	
・年収が50万以上上下がり生活にゆとりがない	

2 調査結果

・東京は働き口がたくさんあり、家族のことがなければまた東京で働きたい
・青森は公共交通機関が少なく、施設も少ないのでとても不便です
・子育てにお金がかかるが、所得が低くて暮らしにくい。高校生に対する支援が少なすぎる
・親の介護等の受け入れや相談場所が少なく、個人の負担は大きいと感じる
・実家から離れているので、収入が低いのに、病気がちで仕事との両立ができなくて仕事もやめてしまい、子育てが孤立していて大変でした
・春頃に大阪か神奈川に転居する予定。青森は冬が辛い
・不安しかない
・女性差別が深刻だと感じる。自分はフェミニストだと思ったことはないが、前近代的「家族観」が非常に強いと感じる。（青森に関わらず）日本のジェンダーギャップは先進国の中でも最低であり、中東のイスラム圏の国々と変わらない。この現状を信ずる男性はどれほどいるだろうか。確かに日本の女性は、伝統衣装の着用を強制されることもなければ、高等教育機関への入学を拒否されることもない（数年前の医学部入試における女子学生への点数操作はあったが・・・）。形式的な平等が確保されているようだが、実質的には差別があり、実はそういった目に見えない差別の方が根深かったりする。 例えば、20 代後半の女性 A が、結婚することになったとしよう。A は相手の男性にこう言う。「当然私の苗字になるでしょ。私は仕事やめないけど、あなたもちゃんと仕事続けて生活費入れてね。それから、家事もちゃんとやってね。特に料理はバランスよく、おかずは 3 品、愛情のこもった手料理が食べたい。子供は産んでもいいけど、産休が終わったらすぐ仕事に復帰するから、あなたが面倒見てね。私は仕事があるんだから、夜泣きとか急病の対応は無理。その場合、あなたには仕事をやめてもらうことになるけど、子供が小学生になったら手もあくだろうし、家でゴロゴロしてても暇だろうからパートに出るといいよ。もちろん、家事はちゃんとやった上でね。そう、最近、リスキリングってよく聞くよね。育児期間利用してなにか資格でもとってみたら？私だって、できるだけ家事育児協力するからさ！」この女は何を言っているのだろう、というのが大方の見方だろう。しかし、この発言、男女が逆だったらどうだろうか？何の違和感もなく、あるいは、違和感は抱きつつも、「そういうものだから」と受け入れるのではないだろうか。ところが、女性も経済力をもつようになって、SNS の普及で多様な価値観に触れられるようになると、「結婚して男性に従属しなくても生きていける！」「都会や世界に出てキャリアアップしたい！」という気持ちや、それが可能であることに気付く。そして、法や行政が変わるまで何十年も待っているよりは、多様な生き方を尊重し合えるコミュニティに出ていくのである。 2019 年、東京大学入学式の祝辞で上野千鶴子教授は、多様性の重要性を説いた。摩擦を恐れることはない、摩擦の生じるところからシステムは産まれるのだから、と。過激な活動や発言でバッシングを浴びることも多い上野教授だが、この祝辞に関しては、日本の偉い男性たち（おそらく多くが、ずいぶん高い下駄を履いて生きてきたことだろう）に聞いてほしいものである。多様性に乏しい組織が遅からず崩壊することは歴史が証明している。

c. どちらでもない

・可もなく不可もない	(2)
------------	-----

2 調査結果

・慣れた風土でのんびり過ごせて自分には合っている。ただ、田舎ならではの「女性は早く結婚すべき」という考えを押し付けられたり、プライバシーに踏み込み過ぎる人と接していたり、プライベートな情報が瞬間に広がる様を目の当たりにすると、「田舎は面倒だから帰りたくない」という友人の言葉にも頷いてしまう面もある
・自然も多いし都会に比べればのんびりしているので子育てには向いていると思う ただ賃金が安いので暮らしづらいと感じる（青森県に限った話ではないが） 都市部との距離は昔に比べれば近くなったと感じるので仕事と賃金の問題がクリアできれば地方で暮らす人は出てくると思う また地方特有の古い考え方をどうするかだと思う
・就職していた会社を退職した際、地元で女性が暮らしていけるだけの収入が得られるか不安があり、主に働く場所や収入を中心に検討していました。ただ、また暮らしてみると地元、県外でそれぞれ良いところ・悪いところがあるので、何を優先するかによると思いました
・自分の意思で戻ったという事もあるのか、特にリターンしたことに対する考えはないです
・自然豊かなのは良いが、都会よりも固定費がかかる。物価が高く、車が無いと生活できないのに賃金が低いので、全く心の余裕がない。最低賃金を上げるべき
・食べ物美味しいものの、給与水準が低い
・もっと不便を感じるかと思ったら、意外とそうでもなかった。ただ、フジテレビが見られないのだけが辛い
・最初は会社からの転勤命令だったので、帰って来なくなかったが、転職も運よくできたので、結果オーライなのかな、と。震災がなければそのまま宮城にいたと思う
・地元が近いのは心情的に落ち着くが、県内で暮らすことの魅力はあまり感じられない
・戻ってきてから1～2年は戻ってきた新鮮さを感じていたが、最近は行くところもだいたい同じで閉鎖的な生活に感じてしまう。 医療の格差や子供の教育環境が首都圏と比べるとやはり気になってしまう
・暮らしやすいのはいいことだと思うが、周りが県外に行きたがったり、県に対する期待があまり持てない等で少し不安もある
・家族と暮らせること、自然豊かで空間があること、人が多すぎないこと、食べ物が美味しいことは良いことだが、自分の欲しいと思うものにすぐにアクセス出来ないことや働く場所が縛られること、車がないと移動が困難なことなど不便と思うこともあった
・戻らなければどんな人生だったかな？と考えてたら悔いがあるってことで、今、振り返って悩むことは無い。だから良かったのだと思います
・正直わからない。便利な生活を知ってしまっているので、歳をとったらこのまま暮らしていけるのか、不安しかない。 給料も安く、昔ながらのねちっこい人間関係もある。物価はどこでもさほど変わらないので、この先もここで生きていけるのか不安
・介護という事情があったので仕方なくリターンしました。介護ができたことだけはよかったと思っています

・ 良い部分もあるが悪い部分もあった
・ 親族がいる以外のメリットは感じにくい
・ 冬の寒さがつらい。人混みがないのは快適
・ Uターンする前には気づかなかった良さがあることに気づいた。かといって、住みやすさとしてはUターンする前に住んでいた地域の方が上だなと感じることが多いので、今後のタイミングによっては県外へ転出する可能性もあると思う
・ 家族を持つことができ、よかったと思う反面、収入面を考えると都会にいた方が良かったのではないかと考えるようになった
・ 親元が近く何かあったときにすぐかけつけられることがメリット。 でも、一人でまともな生活ができる職業、勤め先が限られているので、周囲（友人など）にUターンを勧められない
・ 最初は実家で暮らせることに便利だと思いました。夏は福島よりも体感温度が低くて空気がよかったり、県外での一人暮らし時代にはなかった会話の相手がいたり、住み慣れた地域ということもあって暮らしやすく戻ってよかったかとも思いました。しかし、接続がうまくいかないような形でバスや電車のダイヤが改正されてしまい、年々交通の便が悪いと感じるようになりました。また、都会に住む友人たちと給料の面で差がついてしまったり、価値観の差ができてしまったりとうまくいかない面も増えてきました。また、元々観劇が趣味でしたが、舞台を見るためには首都圏に出ねばならず、移動手段も新幹線や飛行機となると交通費がかさんでしまい、さらにコロナ禍で県外にいったりすると冷たい視線を浴びたり、閉塞的な空気を感じるようになりました。今は戻ってきて少し後悔している部分もあります
・ 育児環境はよかったが、仕事面では少し厳しい
・ 県外で就職していたら、どのような人生だったかなと思うことがある

【I ターン】

a. 良かった

・ 良いと感じており、今後も長く住みたいと思う	(11)
・ 自然豊かで人が優しい。敬語など使わずともフレンドリーで本州最北端の県でありながらも魅力はたくさんあると思う。ただ、青森県独自の手当や助成がないと、魅力があっても流出を防げないし誘致も難しいと思う	
・ 自然豊かで食べ物が美味しいという点にはとても満足している。魅力的な文化もたくさんある。ただ、地元の方がその魅力を軽視していると感じることが多く、その点は残念。 青森が最高！ここでなければ！という気持ちは正直ないが、ここで豊かな暮らしをしていくための選択肢はたくさんあると思う	
・ 自分の故郷は他県ですが、子ども達にとっての故郷は青森県なので、そういう意味では大切な場所だと感じています	

2 調査結果

・想像以上に自然豊か。もっと外部に向けて魅力を発信してほしい
・自分らしい、季節感や美味しい食べ物によって人間らしい生活が出来ていて満足です
・地元の岩手県盛岡市よりも、住んでいる人1人1人の活気や個性が強く感じられて面白い。個人が埋もれていない感じがする
・楽しいです！移住したてのころは首都圏の生活に疲弊して何もやりたくないと思っていましたが、少しずつやりたいことも見えてきました。
・自然が豊かで、子供が小さい時は住みやすいと思う
・日々口にするものがおいしく、四季を感じられ、心に余裕ができ、心身豊かになった
・時間に追われない、長閑な気持ちで過ごしています。自然も豊かで青森県は大好きです。 ただ今一步魅力に欠ける気がします。あと地域での格差（公共施設など）が感じられます。力を合わせるべきでは…？
・ご近所付き合いなど東京ではなかった人の温かみに触れる機会も多く、楽しんで暮らしています
・家賃が安く、自然が豊かで暮らしに不便はなかったなと思う。あと、北海道へのアクセスがしやすいのも魅力的
・30年近く住み、青森県は自然が豊か、地域の特色があるといった魅力に気付いた。治安が良いので安心して暮らすことができる。青森県の魅力があまり知られていないと思う
・青森県に戻るときは深く考えていませんでしたが、結果としてよかったと思っています。 青森市に居住していますが、お店もあり、暮らしやすいと感じています。 東京都などは娯楽も多く、文化的な催しも日常的にあるので憧れますが、毎日利用するものではないので、時々県外に行くだけの経済的な余裕があれば、私には十分です
・初めは戸惑ったが、住み慣れたら自然が豊かで楽しい
・地域ごとに特色があって、一都市だけに集中してないところがおもしろいなと思います。極論言えば北海道は札幌かそうじゃないかで、日本は東京かそうじゃないかなので
・気持ちにゆとりを持って、子育てをできる環境に恵まれたことに満足をしています。魅力的な正社員の職種が少ないように感じます

b. 悪かった

・冬は大変です	(2)
・雪の多さや教育環境の差を感じる	
・公共交通機関での生活が不便で運動不足になる	
・住み続けたいと感じない	
・家族がいなければ東京に戻りたい	
・自然は豊かで空気もきれいなのはいいが、生活するには不便が多い。住民が閉鎖的で暗い	
・小学生までの子育てするにとってもいい環境でしたが、中学以降は格差がありすぎる。県立高校の先生がとにかく進学先を国立にしたがり、子供のやりたいことを勧めない。仕事のなさ、給料の低さ、娯楽施設のなさが最悪。お金もなく楽しめる場所がないのは、やる気がなくなります	

2 調査結果

・「なぜこんなところに移住したの？」と住民から聞かれることに疲れた。大義がなければ移住してはいけないのかと思う上に、「こんなところ」という自虐への反応に困る。若者（年下や同年代）からはこのようなことは言われませんが、年配の方や年が少し上の方からはよく言われることがとても気になる。深刻に考えすぎていることもあると思うが、個人的に非常に苦しいと感じた
・正直後悔している
・死ぬまで暮らしたいとは思えない
・引っ越してよかったとまだ思っていない。今後心境が変わることを期待している

c. どちらでもない

・地域とのマッチングももちろんだが、やはり働く環境とのマッチングももう少し考えて職場を選ぶべきだった
・自然が豊かでいいが、病院に行くにしろ買い物に出るにしろ車がないと生活できない環境が時に辛く感じます
・雪がなければとても満足
・仕事を持っている女性が多い割に男性の意識が低くて驚いた
・特に不便とは感じないが市街から離れると 子供の遊び場が無いのが…